



看護部通信



2021年11月

秋が深まる季節となりました。昨年は一人一人の確実な感染予防対策により、インフルエンザ感染が流行しませんでした。10月頃から新型コロナウイルス新規感染者数の減少傾向が続き、感染予防対策も緩和されてきています。気が緩んでしまいそうですが、感染予防対策はいつでも、どこでもしっかり行っていきましょう。



(看護師長会)

「言・動」

3病棟 M・G

前回看護部通信を書いたのは、娘が生まれる時でした。その娘が10月で2歳になりました。娘はよく話しよく動き、それはとてもとても可愛いです。娘の話し方や動きは大人の言動を真似しており、驚きと共に反省をもたらします。私は家でリラックスして過ごす時、自分の言動について考えていませんでした。しかし、これが教育上どうなのかと心配になります。

仕事はどうでしょうか。患者さんと対面している時やいざという場面では、いつも以上に発言に気をつけています。しかし、動作については、自然と視線や身体の向きが変化しているのではないかと考えてしまいます。精神科看護をしていれば発言内容だけではなく話し方や仕草を観察し、患者さんの状態の変化を捉えようとしています。

観察しているのは看護師だけではなくありません。患者さんも看護師を観察しています。仕事に対する姿勢を見つめ直す機会をくれた娘に感謝です。しかし、娘は感謝の言葉より「抱っこ」を希望することでしょう。



職場風土

3病棟 T・O

3病棟へ配属後、職場風土の重要性を実感しました。

精神科急性期は展開が早く、昼夜問わず精神科救急の対応もあり、常に多忙です。救急対応時の迅速かつ的確な連携はもちろん、日々問題解決に向けボトムアップをうまく取り入れた全職員協力体制が印象的でした。そこには、声掛けが自然とでき、お互いに『信頼』している、お互いの気持ちで心身の『健康』を大切にする、お陰様の気持ちで『感謝』を伝える、お互いを『承認』し『尊敬』し合う、この風土が根付いているからこそではないかと感じました。

慣れない役職と精神科看護に不安であった私は、この風土に何度も支えられました。職場風土は、働く人のモチベーションや行動を左右します。この風土を風化させないよう努力していきたいと思います。

